

けんぽく農林ニュース

ふくしまから はじめよう。 「食」と「ふるさと」新生運動ニュース

～県北地方の「食」と「ふるさと」新生運動に関する
情報をお知らせします～



有限会社川俣シャモファームを中心に、川俣町内での一貫生産体制が確立され、川俣シャモは、本県を代表する特産品に成長しています。



有限会社川俣シャモファームの皆さん

✿ まるせい果樹園が「持続可能な農業推進コンクール」で生産局長賞を受賞！ ✿

平成30年3月1日（木）、農林水産省において、「未来につながる持続可能な農業推進コンクール表彰式」が開催され、福島市の有限会社まるせい果樹園が、GAP部門において、生産局長賞を受賞しました。これは、農林水産大臣賞に次ぐ実質第2席の賞となります。

まるせい果樹園は、第三者認証制度のあるGAP（農業生産工程管理）に取り組み、第三者認証GAPの取得を風評被害対策に活用し、消費者からの信頼回復や販路拡大を図ったことが評価されての受賞となりました。

表彰式後の「全国GAP推進会議」では受賞者の事例発表が行われ、まるせい果樹園の佐藤ゆきえ氏が、「まるせい果樹園の取組～支援から信頼へ～」と題し発表を行いました。

当事務所では、まるせい果樹園の受賞に続き、県北地方の第三者認証GAPの取得がより一層増加するよう、さらに推進・支援してまいります。
(農業振興普及部)



受賞を喜ぶ佐藤取締役(写真右)と妻のゆきえ氏(同左)



表彰式での記念写真(前列左端が佐藤取締役)

かいさく 西根堰が開鑿 400 年！

西根堰は摺上川から取水し、福島市・伊達市・桑折町・国見町の2市2町に広がる水田・畑約1,300 haをかんがいする二つの堰・用水路(西根上堰・西根下堰)の総称です。西根下堰の完成は江戸時代初期1618年(元和4年)であり、今年で開鑿400周年を迎えることから、この歴史ある農業水利施設を紹介します。

西根堰の流れる地域(西根郷)は、もともと肥沃な土地でしたが、台地で水利に恵まれず荒地となっていました。そこで、安定した水源を確保するため、飯坂町湯野を流れる摺上川から桑折町伊達崎まで続く西根下堰(約13km)が造られ、続いて、伊達市五十沢まで続く西根上堰(約30km)が造成されました。上堰の工事では、摺上川上流付近においては硬い岩山を鑿や鑿のみ たがねを使って掘削し、また、水路勾配については、30km先の土地へわずか50mの落差で水を運ぶなど、水の自然流下ではほぼ限界に近い水路勾配となっており、当時の人たちの高い技術力や、水をより遠くへ届けようとする強い信念が伺えます。

その後、西根堰は昭和40～50年代に県営かんがい排水事業でコンクリート水路等に整備されましたが、石積の護岸や岩盤を掘った隧道など、所々に昔の姿を残しており、平成22年度に公益社団法人土木学会の選奨土木遺産に認定されました。また、地域学習の場としても活用されており、毎年、伊達西根堰土地改良区が中心となって、小学生の見学会や、「西根堰の隧道探検」、「選奨土木遺産“西根堰”ノルディックウォーキング」などのイベントが開催されています。

現在、施設の老朽化の改善のため、平成24年度から、福島県の基幹水利施設ストックマネジメント事業による補修・更新工事を実施しています。計画的かつ効果的に事業を実施して、400年間大切に受け継がれてきた施設を将来へより良い形で残し、施設の役割や価値を後の世代へ伝えて行くことができるよう努めたいと思います。(農村整備部)



大正時代



現在

摺上川上流の岩場に位置する西根堰頭首工



隧道探検の様子



ノルディックウォーキングの様子

地域学習にも活用されています。

「県産木材の利用推進研修会」を開催！

平成30年2月28日（水）に、福島県庁北庁舎4階災害対策本部室において、「ふくしま県産木材利用県北地方連絡会議」を開催しました。

この連絡会議は、国、県の出先機関と市町村の公共事業実施部局で構成され、福島県産木材の利用拡大を推進し、公共施設の木造化等を推進するため、毎年開催しています。

会議では、主に各部局に公共施設の木造化及び木質化等の推進についての情報提供を行いました。

また、今後、施設の木造化等を進めるために、木材や林業の実際の現場を訪問し肌で感じていただくことが重要と考え、現地研修も盛り込みました。

現地研修では、最初に有限会社福島原木センターを訪問しました。

同社は年間約30千 m^3 の取扱いがあり、その9割以上は福島県産の木材です。

代表取締役で林業普及指導協力員の佐藤政俊氏より、構内をめぐりながら、それぞれの木材の用途や利用先、現在の木材の市況や搬出適期などの説明をいただきました。

次の研修場所である吾妻林業株式会社は、年間約20千 m^3 の県産原木を消費している県北地方でも有数の製材工場及びチップ工場です。

専務取締役の吉田芳康氏より、ツインバンドソー等の製材機械の説明を受けながら、施設を見学しました。

研修終了後、市町村担当者からは、「林業について理解を深めるとても良い機会になった。」「今後は、高性能林業機械での伐採作業も見学したい。」との意見をいただきました。

今後も、研修内容についてのニーズを探りながら、県産材利用拡大に向けた研修会を開催していきたいと思えます。
(森林林業部)



木材市場での研修の様子



製材工場での研修の様子

福島市農業後継者連絡協議会の「クラブ活動・意見発表会」が開催！

平成30年2月28日（水）、MAXふくしま^{アオウゼ}において、福島市農業後継者連絡協議会（以下「市連協」という。）のクラブ活動・意見発表会が開催されました。

この発表会は毎年開催されており、クラブ活動発表の部では、市連協を構成する6つの単位クラブから、公園管理者からの委託によるハナモモの剪定・害虫の防除や、さつまいもの収穫による幼稚園児との交流等、各クラブの地域に根ざした活動や、県内外での農産物のPR、先進地への視察研修の活動について報告されました。

意見発表の部では、今年度新規就農した清野真矢^{せいのまや}氏（信陵青年部）と小野徳章^{おののりあき}氏（平野農業後継者協議会）から、就農しての感想や今後の目標等が発表されました。清野氏は、農業が持つ「食育」の可能性に着目するなどの取組をされており、これからも食育を意識した経営に取り組んでいきたいと発表されました。小野氏は、自らが体験した農業の大変さややりがいについて発表されました。出席者の多くは、両氏に共感し熱心に聴き入っていました。

当事務所では、これからも市連協の活発な活動が継続できるよう支援してまいります。

（農業振興普及部）



市連協の活動紹介



各クラブの活動紹介



農業への想いを語る清野氏



農業のやりがいを語る小野氏

「あんぽ柿生産・販売検討並びに次年度対策会議」が開催！

平成 30 年 3 月 6 日（火）、伊達市梁川町の J A みらいホール「ラブール」において、全国農業協同組合連合会福島県本部及びふくしま未来農業協同組合の主催による平成 29 年度あんぽ柿生産・販売検討並びに次年度対策会議が行われました。

会議には、市場関係者、全国農業協同組合連合会福島県本部、ふくしま未来農業協同組合、当事務所伊達農業普及所の職員等が出席し、同組合の宍戸里司伊達地区あんぽ柿生産部会長が挨拶を行った後、今年度の販売実績の報告と次年度の販売対策の協議が行われました。

今年度の生産・販売状況については、天候に恵まれたため品質の良いあんぽ柿が生産され、高単価での販売につながりました。また、今後の販売量拡大に向け、従来よりも少量規格の商品の開発や若い消費者向けの販売方法の工夫についての意見が出され、次年度に向けた有意義な検討がなされました。

出荷再開から 5 年目を迎えた平成 29 年度の伊達地域のあんぽ柿出荷量は、2 月末日時点で昨年の総出荷量に並び 1, 200 t を超える見込みとなりました。

今後とも、産地が一丸となり出荷量及び販売金額をさらに増加させ、あんぽ柿の完全復活を目指して積極的に活動してまいります。
(伊達農業普及所)



挨拶を述べる宍戸部会長



意見を述べる市場関係者

福島地域酒米研究会の「研修会・実績検討会」が開催！

平成 30 年 3 月 7 日（水）、福島市大町の「チェンバおおまち」において、福島地域酒米研究会主催による「平成 29 年度福島地域酒米研究会研修会及び実績検討会」が開催されました。

本研究会は、平成 29 年 7 月に、福島地域における地産地消による特徴ある日本酒づくりと良質な酒造好適米生産による持続可能な地域農業の振興を目的として設立されました。

当日は、有限会社金水晶酒造店や福島大学経済経営学類小山良太ゼミナールのゼミ生、生産者等、会員ら 15 名が出席しました。

研修会は、「福島県における水稻品種開発及び酒造好適米の栽培上の特性」と題し、県農業総合センター品種開発科の大寺真史副主任研究員から、現在有望視されている「福島酒 50 号」も含めた品種開発や栽培に関する説明があり、活発な質疑^{みゆき}応答が行われました。

続く実績検討会では、有限会社金水晶酒造店の斎藤美幸^{みゆき}常務から「今年産の米は軟らかく、醸造する際に気温を低めに設定した。」ということや、「酒の味がより良くなるように、有機質肥料を使って欲しい。」といった要望等の話がありました。生産者側からは、鳥害対策や収量・品質

向上を目指す等の意見が出され、福島大学からは、生産者と有限会社金水晶酒造店の協力によって完成した日本酒「ふくでむすぶ」が紹介されました。

当事務所では、次年度の活動がさらに発展したものとなるよう、引き続き支援を行ってまいります。
(農業振興普及部)



松浦農業振興普及部長の挨拶



研修会の様子

「JAふくしま未来合同表彰式・研修会」が開催！

平成30年2月21日(水)、福島市土湯の山水荘において、肉用牛に関する「JAふくしま未来合同表彰式・研修会」が開催され、福島、伊達、安達及び相馬地区から和牛繁殖並びに肥育経営農家や関係機関約70名が出席しました。

表彰式では、JAふくしま未来春季枝肉研究会など5枝肉研究会及び第2回JAふくしま未来肉用牛共進会の、それぞれで最優秀賞を受賞した畜産農家が表彰されました。

また、ふくしま未来農業協同組合の菅野孝志代表理事組合長から、2月16日(金)に東京都中央卸売市場食肉市場で開催された第53回肉用牛枝肉共励会において、上野広行氏(安達地区)が「農林水産大臣賞」を受賞した様子が報告され、昨年の鈴木廣直氏(安達地区)に引き続き、2年連続でJAふくしま未来の肥育農家が受賞したことが紹介されました。

合同表彰式の後には、「ICTを活用した中小畜産農家の省力化及び経済損失軽減のために～MOH-CALシステムについて～」と題し株式会社コンピューター総合研究所応用システム開発部 課長 高崎謙一氏と、同部 課長 岩田貴至氏の講演があり、参加者は熱心に聴講していました。
(農業振興普及部)



来賓祝辞を述べる松浦農業振興普及部長



講演を熱心に聴講する参加者

福島市・川俣町農業士会の「総会・研修会」が開催！

平成30年3月9日（金）、福島市飯坂町の旅館湯乃家において、福島市・川俣町農業士会の平成29年度総会及び研修会が開催され、会員約20名が出席しました。

総会では、新たに加わった青年農業士が紹介されたほか、平成30年8月30日～31日に開催される「東北・北海道地域農業士研究会」への参加等が議決されました。

総会に引き続いて、有限会社まるせい果樹園の佐藤ゆきえ氏と、当事務所農業振興普及部の中里ゆきの技師が講師となり、「GAP取得に向けて」と題して研修会が行われました。GAPを取得することで、農薬や肥料、資材の在庫管理が徹底され、コストダウンが図られることや経営者としての自覚が強くなること、売上が向上するなどの具体的なメリットについて研修しました。

参加者からは「販売戦略にGAPが強みになることが分かり、勉強になった。」と大変好評でした。

当事務所では、GAP日本一を目指し、第三者認証GAPの取得を引き続き支援してまいります。

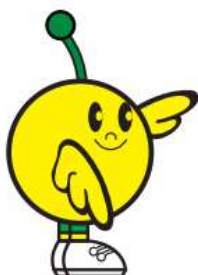
（農業振興普及部）



来賓祝辞を述べる松浦農業振興普及部長



佐藤ゆきえ氏による「まるせい果樹園のGAP取得」の講演



「ペポカボチャ生産者会」が設立！

これまで本紙で御紹介している「ペポカボチャ」についての続報です。

平成30年3月2日（金）、福島県伊達合同庁舎2階大会議室で「ペポカボチャ生産者会設立総会及び臨時総会」が開催され、伊達市内の生産希望者や関係者等、15名が参加しました。

設立総会は、有限会社三宝工業の西戸裕一代表取締役の発起人挨拶から始まり、協議事項として、会員案と規約案を承認し、役員選出を行いました。その結果、会長には有限会社三宝工業の農業部執行役員長田吉正おさだよしまさ氏が選出され、その他の役員も無事に決定しました。

引き続き、規約に則り、臨時総会が開催され、長田会長が挨拶した後、来賓の保原町商工会の佐藤晃司会長と当事務所伊達農業普及所の吉田清所長が祝辞を述べました。その後、平成30年度事業計画案や収支予算案等が承認され、会員13名の「ペポカボチャ生産者会」が設立されました。

当事務所伊達農業普及所では、「ペポカボチャ生産者会」への技術指導等を通して、ペポカボチャの生産拡大を進めるとともに、加工・販売までを支援しながら、産地化を目指してまいります。（伊達農業普及所）



長田会長の挨拶



保原町商工会長の祝辞



当事務所伊達農業普及所 吉田所長の祝辞



総会出席者で集合写真
(ペポカボチャを持っているのが長田会長)

注意！！ その山菜、出荷して大丈夫ですか？

県北地方では、下記のとおり出荷制限指示が出されております！！
再度確認のうえ、出荷制限品目を出荷しないよう、御協力願います。

平成30年3月30日現在

くさそてつ (こごみ)	福島市 二本松市 伊達市 桑折町 国見町 川俣町 大玉村
たけのこ	福島市 二本松市 伊達市 本宮市 桑折町 川俣町 大玉村
ふきのとう (野生もののみ)	福島市 伊達市 本宮市 桑折町 国見町 川俣町
ぜんまい	二本松市 川俣町
ぜんまい (野生もののみ)	大玉村
たらのめ (野生もののみ)	福島市 二本松市 伊達市 本宮市 桑折町 川俣町 大玉村
わらび	伊達市 川俣町
わらび (野生もののみ)	福島市 二本松市
こしあぶら	福島市 二本松市 伊達市 本宮市 桑折町 国見町 川俣町 大玉村
ふき (野生もののみ)	桑折町
うわばみそう (野生もののみ)	国見町

出荷が制限されている品目については、自主検査により「基準値（100Bq/kg）以下」であっても出荷や販売は行わないでください。また、飲食店や宿泊施設等での提供や加工用原材料としても使用しないでください。

なお、最新の情報は福島県ホームページなどで確認いただくか、当事務所にお問い合わせください。

◆ふくしま新発売。（農林水産物モニタリング情報）URL

<http://www.new-fukushima.jp/>

◆お問い合わせ先

福島県県北農林事務所 森林林業部林業課

電話 024-521-2632

FAX 024-521-2851

けんぼくの6次化の取組の紹介 ふくしま農家の夢ワイン株式会社 「オヤジたちの夢、ぶどう畑にみのる！」



二本松市東和で、耕作放棄地の解消と地域活性化を目指し、若い女性を呼べるワインづくりに取り組もうというアイデアが地元のオヤジたちから出され、平成24年9月に「ふくしま農家の夢ワイン株式会社」を設立しました。

私達は、まず始めに、地域の耕作放棄地や遊休農地を開拓し、ブドウを育てる農家を募りました。そこで栽培し収穫したブドウでワインを醸造し、販売しています。ブドウが育つまでの期間は、地元の果樹園で栽培されているリンゴを醸造したシードル（リンゴの発泡性果実酒）の販売にも取り組みました。

年々、ブドウの収量は上がってきており、ワインの醸造本数も増え、ブドウ栽培農家の収入も増え、新たな産業として地域に根づきつつあります。

●6次化商品の紹介など

- ・摘果されるリンゴを使用した「グリーンシードル」は、甘く、渋みと酸味のバランスのとれた人気商品となっています。
- ・ワインは赤を5銘柄、ロゼを1銘柄販売しております。特に赤ワインの「一慶^{いっけい}」はJRの豪華列車「四季島」にも採用され、香り高く深い味わいが人気となっています。
- ・定期的に開催している感謝祭などのイベントで、自分の畑で収穫されたブドウのワインを飲む喜びや、たくさんの方に飲んでもらえる喜びを共有しています。また、地域の酒店や道の駅などでも販売しております。

●その他

- ・ブドウの品種数も増えてきており、地域や、栽培農家ごとのワインも販売しています。ブドウの木の成長と、気候等によりワインの味も変わってきます。その年ごとの味わいを楽しんでいただけたらと思います。

●事業者データ ふくしま農家の夢ワイン株式会社

住所： 〒964-0203 福島県二本松市木幡字白石 181-1

電話： 0243-24-8170

mail: fukuyume@ivy.ocn.ne.jp

Facebook : <https://ja-jp.facebook.com/fukuyumewine>



感謝祭の様子



植栽イベントの様子



販売しているワインやシードル

編集・発行 福島県東北農林事務所 企画部 地域農林企画課

電話 024-521-2596 FAX 024-521-2850

ホームページ <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36210a/>

電子メール kikaku.af01@pref.fukushima.lg.jp

